

<< シラバス 目次 >>

4. デザイン学部 学部共通科目

科目番号	講義科目名称	ページ数	開講期間	配当年	単位数	科目必選
DX104A	現代科学入門	P1	前期	1年	2単位	選択
DX105A	数学入門	P2	後期	1年	2単位	選択
DX107A	デザイン学概説	P4	前期	1年	2単位	必修
DX109A	美術史	P5	前期	1年	2単位	選択
DX110A	デザイン史	P6	後期	1年	2単位	選択
DX111A	デザイン心理学	P7	後期	1年	2単位	選択
DX112A	経済学概論	P8	前期	1年	2単位	選択
DX301A	メディア文化論	P9	前期	2年	2単位	選択
DX302A	ユニバーサルデザイン	P10	前期	2年	2単位	選択
DX303A	人間工学 I	P11	前期	2年	2単位	選択
DX304A	映像メディア論	P13	後期	2年	2単位	選択
DX308A	人間工学 II	P14	後期	2年	2単位	選択
DX309A	生活と環境	P15	前期	2年	2単位	選択
DX310A	企業経営論	P17	前期	2年	2単位	選択
DX311A	北九州学	P19	後期	2年	2単位	選択
DX312A	観光産業論	P21	後期	2年	2単位	選択
DX501A	インテリアデザイン	P22	前期	3年	2単位	選択
DX502A	景観デザイン	P23	前期	3年	2単位	選択
DX503A	空間デザイン	P24	後期	3年	2単位	選択
DX504A	経営組織	P25	前期	3年	2単位	選択
DX505A	会計学入門	P27	前期	3年	2単位	選択
DX506A	時事問題研究	P28	後期	3年	2単位	選択
DX507A	ビジネスと経済	P29	後期	3年	2単位	選択

授業年度	2017	シラバスNo	DX104A
講義科目名称	現代科学入門		
英文科目名称	Introduction to Modern Science		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	太田 有生夫		
開講意義目的	現代を生きる我々を支えている科学技術が、どのような経緯を経て開発され普及したものであるかを、明治維新から現代までの歴史を振り返り、その社会的背景、開発に携わった人物像、その後の社会に与えた影響などについて、いくつかの事例を挙げて検証する。		
授業計画	<p>第1回 日本の技術革新経験 西洋近代技術の導入から現代における生活の変化について解説する。</p> <p>第2回 技術革新のモデルと日本の特徴 日本における技術革新の特徴を、いくつかの革命的技術革新の事例を通して解説する。</p> <p>第3回 大規模プロジェクト プロジェクトの特徴を、日本や世界で実施された代表的プロジェクトの事例を通して解説する。</p> <p>第4回 知的財産保護 特許権など、知的財産を保護する仕組みについて解説し、現代が抱える知的財産保護の問題点について考察する。</p> <p>第5回 工学教育と技術者 日本における技術者養成の歴史を振り返り、21世紀に期待される技術者像について考察する。</p> <p>第6回 安全な技術の確立 近代から現代に至る労働災害の歴史を振り返り、現代が抱える新しい危険源について解説する。</p> <p>総合レポート 総合レポート(1)作成 第1回から第6回までの授業内容を振り返り、総合レポートを作成する。</p> <p>第7回 技術と生活の変容 近代から現代にかけて、新しい技術の普及がもたらした日本人のライフスタイルの変化について解説する。</p> <p>第8回 伝統文化と技術革新 日本の陶磁器生産の歴史を通して、西洋文化の吸収から世界最高レベルの生産技術を構築するまでの過程について解説する。</p> <p>第9回 日本のテレビ技術 人類の偉大な発明品のひとつであるテレビの開発の歴史を通して、テレビの開発競争に敗れながらも開発に邁進した技術者の姿と、世界に先駆けてテレビ用のアンテナを開発したにもかかわらず、その功績を認められなかった研究者の姿を対比し、技術開発の光と影について解説する。</p> <p>第10回 自然エネルギーの利用技術 石油代替エネルギーとしての自然エネルギーの利用技術について解説する。</p> <p>第11回 原子力と核燃料サイクル 日本の原子力推進政策の歴史を説明し、世界の原子力発電所事故、核燃料サイクルの困難さ、放射性廃棄物処理の困難さ、放射線被曝量の法的規制について考察する。</p> <p>第12回 ロボットの科学技術 安心で安全な社会を支える技術のひとつとしてロボット技術を採り上げ、人間とロボットが共存できる社会の構築について解説する。</p> <p>総合レポート 総合レポート(2)作成 第6回から第12回までの授業内容を振り返り、総合レポートを作成する。</p> <p>第13回 現代社会を取り巻く環境問題 複雑極まりない現代社会を取り巻く環境問題について、環境問題が発生する社会的背景について解説する。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	問題を構造的かつ客観的(科学的)にとらえ、創意工夫して問題解決に取り組むことができる能力を習得する。		
授業の到達目標	① 現代が必要としている科学技術について認識し、各自が社会に対していかに貢献すべきであることを自覚する。 ② 意思決定に際しての情報収集の仕方と理論的思考のあり方について学習する。		
指導方法	① 担当教員が準備する印刷教材に沿って、必要な事項について解説する。 ② 研究課題を指定し、レポートの作成を課す。		
教科書・参考書	担当教員が印刷教材を準備する。		
評価方法	課題レポート(6回) 70%、第1回から第6回までの総合レポート 15%、第7回から第12回までの総合レポート 15%		
受講上の注意	① 課題レポートは指定された期日までに遅滞なく提出すること。提出期限を過ぎてからの提出は原則として認めない。 ② 欠席届を提出した場合でも課題レポートは免除とならないので、担当教員の指示に従い提出すること。		
授業外における学習方法	指定された研究課題について資料を収集し、レポートを作成する。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	【能動的授業の種類】なし【地域課題解決目的有無】なし		

授業年度	2017	シラバスNo	DX105A
講義科目名称	数学入門		
英文科目名称	Introduction to Mathematics		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員	河野 雅也		
開講意義目的	日頃何気なく見ているデザインの中には色々な数学的要素が埋め込まれている。言い方を変えれば、デザインには数学的なセンスが必要になる。そこで、本講義では身の回りにある数理を題材にしながら、数学的なセンスを養うための基礎的な数学について学習する。		
授業計画	1回 インタロダクション ・履修ガイダンス ・学習到達度判定テスト 2回 2次関数 ・2次関数のグラフ ・2次関数の最大と最小 ・2次関数の応用 3回 三角関数(1) ・三角比 ・弧度法 ・三角関数の性質 4回 三角関数(2) ・正弦定理 ・余弦定理 ・三角関数の合成 5回 指数関数と対数関数 ・累乗と指数 ・指数関数 ・対数 ・対数関数 6回 数列と極限 ・数列 ・極限 7回 微分(1) ・微分の定義 ・定義の沿った微分 ・多項式の微分 8回 微分(2) ・色々な関数の微分 ・合成関数の微分 9回 微分(3) ・関数の最大, 最小 10回 積分(1) ・積分の定義 ・多項式の積分 11回 積分(2) ・色々な関数の積分 12回 積分(3) ・面積 ・体積 13回 ベクトル ・ベクトルの定義 ・ベクトルの表現方法 ・ベクトルの和差 ・ベクトルの合成と分解 14回 行列(1) ・行列の定義 ・行列の表現方法 ・行列の和差 15回 行列(2) ・行列の積 ・逆行列 ・連立1次方程式 ・全体のまとめ ・今後の学習方法		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は、以下の教育目標との対応科目である。 建築学科の場合は、次の通りである。 4)実務型技術者としての実践力 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。 情報デザイン学科の場合は、次の通りである。 4)実務型技術者としての実践力 社会人基礎力を身につけ、情報技術とデザイン力で地域社会や産業界に貢献することができる。		
授業の到達目標	基本的な関数の性質を学んだ後、微分積分学および線型数学の基礎を習得する。		
指導方法	講義形式で行う。講義内容を要約したスライドや配付資料を用いて説明する。 理解度をチェックするために、適宜レポートを課す。		
教科書・参考書	教科書:「数学入門」、橋口・星野・山田、学術図書出版社 参考書:なし。 適宜資料を配付する。		
評価方法	講義内容に関わる複数回のレポート(30%)および期末試験(70%)で成績を評価する。		

受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー: デザイン学部 1002研究室; 在室時であればいつでも訪問可. ・Emailアドレス: mkawano@nishitech.ac.jp (※)質問等については, emailでも受け付ける. ・交通機関の遅れなどの理由がない限り, 授業開始後10分以上の遅刻は欠席扱いとする. また, 無断で途中退出した場合も欠席扱いとする. ・学習態度が良好で, かつすべてのレポートが受理された者のみに期末試験の受験資格を与える.
授業外における学習方法	授業計画に記載している内容についてテキストや事前配付資料等をもとに調べておくとともに, 前回の講義内容を復習した上で, 講義に臨むこと.
能動的授業科目及び地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> ・能動的授業科目有無: なし ・能動的授業科目種類: - ・地域志向科目有無: なし ・地域志向科目内容: -

授業年度	2017	シラバスNo	DX107A
講義科目名称	デザイン学概説		
英文科目名称	introduction to Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員	岡田, 平井, 船本, 新藤, 成田, 三笠, 石垣, 水野, 梶谷, 宝珠山, 趙, 高柳, 浜地, 中島		
開講意義目的	大学でデザインを学ぶための導入講義を行う。デザイン学部全教員が各専門分野のエッセンスについて、研究や実践活動などを紹介しながらわかりやすく解説する。		
授業計画	<p>1回 4/10(平井) 建築における鉄骨構造の特色と世界の超高層建築物について概説</p> <p>2回 4/17(宝珠山) 情報デザイン学及びメディア表現について概論的講義を行う</p> <p>3回 4/24(岡田) 建築の「計画」について研究室の設計活動、まちづくり活動、研究活動を紹介し解説</p> <p>4回 5/1(趙) 映像やCGIに関する事例を紹介し、社会での役割及び可能性について概説</p> <p>5回 5/8(成田) 建築設備とその基礎学問となる建築環境工学について概説</p> <p>6回 5/15(高柳) デザインと何か、そして社会で必要とされるシステムを解説</p> <p>7回 5/22(石垣) 建築設計の流れについて概略を図面や工事写真などを用い説明</p> <p>8回 5/30(浜地) グラフィックデザインや絵画の平面造形の社会的役割や魅力を概説</p> <p>9回 6/5(水野) 建築およびデザインの歴史について解説</p> <p>10回 6/12(中島) クルマや雑貨などの工業製品のものづくりにおけるデザインの役割を学ぶ</p> <p>11回 6/19(三笠) 都市計画について解説</p> <p>12回 6/26(新藤) セメント・コンクリートについて</p> <p>13回 7/3(梶谷) 地域活性化について</p> <p>14回 7/10(船本) 鉄筋コンクリート構造の解説と、今、鉄筋コンクリートに求められているものを概説</p> <p>15回 7/24(岡田) まとめ</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>2) 創意工夫力・問題解決力 現代的課題を多面的に考え、創意工夫しながら解決する能力を持ち課題解決に取り組むことができる。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力 建築士(1級建築士、2級建築士)の資格取得に必要な基本的知識・技能・技術を習得し、資格取得に対応できる。</p> <p>4) 実務型技術者としての実践力 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。</p>		
授業の到達目標	デザインが豊かな人間生活の向上にどのような影響をあたえるのかを考えること。		
指導方法	オムニバスで講義をする。		
教科書・参考書	講義の中で必要に応じて紹介する。		
評価方法	授業参加状況および各講義の最後に実施する小論文または小テストの採点結果による。		
受講上の注意	必修科目である。毎回実施する小論文または小テストの採点結果が成績評価に直結するので、遅刻や欠席することなく、勉学に精進すること。		
授業外における学習方法	復習すること。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:なし</p> <p>2. 能動的授業科目種別:一</p> <p>3. 地域志向科目有無:有</p> <p>4. 地域志向科目内容:一部</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	DX109A
講義科目名称	美術史		
英文科目名称	History of Art		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	床田 明夫		
開講意義目的	現在、私たちが目にするアート作品は、決して突然現れたものではなく、先人たちの表現に対する追求の積み重ねの上に成り立っているものである。また、過去の作品はただの遺物ではなく、改めて見直され、新たな表現につながっている。本授業では絵画や彫刻を中心に人類の誕生から現代までの美術作品を紹介してゆく。美術と社会の関係性を確かめる上でも、制作時の時代背景や技術とともにどのように表現が変化していったのかをとらえ、美術の大きな流れを理解し、作品の成り立ちを考察していく。また、造形的解釈に基づいて解説して、イメージと表現の		
授業計画	1回 インTRODクシヨン 講義概要説明 美術史におけるアニメ・コミック・フィギュアの位置 2回 原始美術 巨石構造物、洞窟絵画、縄文美術及び現代美術との類似性 3回 古代文明の美術 黄河・長江文明、エジプト文明、メソポタミア文明、インダス文明、古代中南米文明 4回 ギリシャ・ローマ美術 エーゲ海、アルカイック、クラシック、ヘレニズム、ローマ美術 5回 仏像 仏像の成り立ち、種類、仏像の表現、技法 6回 中世ヨーロッパ美術 初期キリスト教、ビザンチン、ロマネスク、ゴシック美術、レポート講評 7回 ルネッサンス① ゴシック末期、初期ルネッサンス 8回 ルネッサンス② 盛期ルネッサンス、北方ルネッサンス 9回 日本絵画史① 装飾古墳、古代、中世、江戸初期 10回 日本絵画史② 浮世絵とその影響 11回 バロック～ロマン派 バロック、ロココ、新古典、ロマン派 12回 印象派とポスト印象派 写実主義、自然主義、印象派、ポスト印象派、印象派以降 13回 ロダンからの展開 ロダン、ロダンの弟子たち、ブランクーシ、形の追求、戦後イタリア彫刻、明治以降の日本彫刻少年期 14回 ピカソ 青年期、青の時代、バラ色の時代、キュビズム、新古典時代、抽象作品、ゲルニカ 15回 現代美術 現代美術の概略、19世紀末から21世紀、戦後日本美術、レポート講評		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は、以下の教育目標との対応科目である。?1-1)人間社会とデザインとの関わりを幅広く理解することができる?1-2)アイデアをデザイン化するための芸術的感性を高めることができる		
授業の到達目標	①美術史の大きな流れを理解する。?②社会の変化と美術表現の変化との関係を理解する。?③様々な絵画・彫刻を観察し、表現の工夫を発見する力を身につける。		
指導方法	各回のテーマになる時代の作品を紹介する。視覚的な資料をプロジェクターによって投映し解説する。		
教科書・参考書	教科書:使用しない?参考書:カラー版西洋美術史、日本美術史、その他必要に応じて紹介する。		
評価方法	レポート:80% 受講態度:20%		
受講上の注意	レポートを前半と後半の2回課す。そのために授業で紹介された中で興味を持った作品・作家をチェックしておくこと。		
授業外における学習方法	各回の授業に実施される教科書の範囲に目を通し、授業時に紹介した作品に関しては各自授業後に調べること。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1、能動的授業科目有無:なし 2、能動的授業科目内容:— 3、地域志向科目有無:なし 4、地域志向科目内容:—		

授業年度	2017	シラバスNo	DX110A
講義科目名称	デザイン史		
英文科目名称	History of Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員	水野 貴博		
開講意義目的	デザインという分野の広がりとともに、その扱う対象も広がっている。この講義では、一般的なデザイン史が扱う19-20世紀のプロダクトデザインの歴史にとどまらず、現在のデザインという概念が成立する前の時代も含め、情報デザイン、環境デザイン、プロダクトデザインの流れを概説し、デザインとは何かという問いに対して広い視野から答えを考える力をつけることを目標とする。		
授業計画	1回 インTRODクシヨ デザインのはじまり/デザインの世界の広がり 2回 地図 世界を記述する 3回 文字・書籍 情報を記録する 4回 ミュージアム・百科事典 情報を編纂する 5回 通信・広告 コミュニケーションのデザイン 6回 服飾 身体と社会の接点 7回 家 空間を囲う 8回 都市・祝祭 日常と非日常の空間 9回 ランドスケープ 社会と自然を繋ぐ 10回 工業生産とデザイン 近代社会の成立と19世紀のプロダクト 11回 芸術運動とデザイン 19世紀末～20世紀前半のアートとデザインの接点 12回 新しい材料とデザイン 19-20世紀の工業材料から生まれた造形表現 13回 消費社会とデザイン 20世紀前半アメリカと戦後のプロダクトデザイン 14回 風土とデザイン 地域の環境や生活を反映したデザイン 15回 未来を描く 科学技術・社会問題とデザイン		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 建築学科の場合は、次の通りである。 3) 専門的知識・技術の活用力: 建築士(1級建築士、2級建築士)の資格取得に必要な基本的知識・技能・技術を習得し、資格取得に対応できる。 4) 実務型技術者としての実践力: 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。 情報デザイン学科の場合は、次の通りである。 3) 専門的知識・技術の活用力: 社会の課題解決に向けて具体的な提案を的確に伝えることができる。		
授業の到達目標	デザインの各分野の理念とその背景にある文化や技術を理解する。		
指導方法	プロジェクターによって投影する画像と配布資料を用いて解説する。		
教科書・参考書	教科書: なし、適宜プリントを配布 参考書: 講義の中で紹介		
評価方法	各回の授業中に行う理解度確認クイズ(20%)、レポート課題(80%)により評価する。		
受講上の注意	レポート課題は3回程度出題する。すべて提出しなければ合格にはならないので注意すること。		
授業外における学習方法	内容が多岐に渡るので、講義のレジュメを読み返すだけではなく、紹介する参考文献にできる限り目を通し、理解を深めること。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目内容: - 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -		

授業年度	2017	シラバスNo	DX111A
講義科目名称	デザイン心理学		
英文科目名称	Design Psychology		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員	山縣 宏美		
開講意義目的	デザインに関わる心理学的知見や、製品を購入、使用する人の心理、その測定法についての講義を行う。実際に何かをデザインする時や、デザインしたものを説明する時に、これらの知見を使用することができるようになることを目的とする。		
授業計画	1回 デザイン心理学とは オリエンテーション 2回 デザインの認知1 人の知覚の特徴:視覚 3回 デザインの認知2 人の知覚の特徴:運動視,聴覚,感覚の統合 4回 色の認知 色の認識と心理的効果 5回 空間の認知1 認知地図 6回 空間の認知2 認知地図形成に関わる要因 7回 ヒューマンエラー1 エラーの種類,特徴 8回 ヒューマンエラー2 エラーを防ぐデザイン:アフォーダンスなど 9回 消費者行動1 購買行動のモデル 10回 消費者行動2 広告の影響 11回 マーケティング・リサーチ1 マーケティングリサーチとは 12回 マーケティング・リサーチ2 調査対象の選び方,調査の実施の仕方 13回 マーケティング・リサーチ3 調査項目の作り方,分析方法 14回 マーケティング・リサーチ4 マーケティングリサーチの実習 15回 期末試験,試験内容の解説 期末試験およびその解説		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 建築学科の場合は、次の通りである。 4)実務型技術者としての実践力:生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。 情報デザイン学科の場合は、次の通りである。 2)創意工夫力・問題解決力:社会的課題を発見し、幅広い知識と柔軟な思考でよりよい社会の実現に向けた解決策を提示することができる。 4)実務型技術者としての実践力:社会人基礎力を身につけ、情報技術とデザイン力で地域社会や産業界に貢献することができる		
授業の到達目標	デザインに関わる心理学的知見を理解し、これらの知見を利用することができるようになる ・デザインを認識するプロセスについて理解する ・アフォーダンスについて理解し、使いやすいデザインについて理解する ・製品を購入、使用する人の心理、その測定法について理解する		
指導方法	講義,実習による		
教科書・参考書	プリントを配布 教科書:なし 参考書:なし		
評価方法	出席状況(30点)期末試験(70点)により評価する		
受講上の注意	なし		
授業外における学習方法	授業中に出される課題を次週までに完成し提出すること		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:一 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:一		

授業年度	2017	シラバスNo	DX112A
講義科目名称	経済学概論		
英文科目名称	An Introduction to Economics		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	竹中 知華子		
開講意義目的	本講義では、経済学の基礎理論を可能な限り平易に解説し、マクロ経済学やミクロ経済学といった専門的な経済知識をマスターすることを目的としています。知識を得るには体系だった学習が必要ですが、効率的に講義を進め、応用的な経済問題にも取り組んでいきます。		
授業計画	1回 経済循環のメカニズムや需要、供給など、経済の基本的な理論について学ぶ(1) 経済とは何でしょう？ 2回 経済循環のメカニズムや需要、供給など、経済の基本的な理論について学ぶ(2) 生産者や消費者の理論 3回 経済循環のメカニズムや需要、供給など、経済の基本的な理論について学ぶ(3) 市場の理論 4回 経済循環のメカニズムや需要、供給など、経済の基本的な理論について学ぶ(4) 市場の効率と市場の失敗 5回 金融の基礎知識や金融市場、金利について学ぶ(1) 金融とは 6回 金融の基礎知識や金融市場、金利について学ぶ(2) 金融市場 7回 金融の基礎知識や金融市場、金利について学ぶ(3) 外国為替市場とは何か。円高、円安の原因、影響などについて学びます 8回 物価とは何か？ 景気、インフレーションやデフレーションについて学びます 9回 経済のメカニズム 金利、為替相場、物価などと景気の間関係を学ぶ 10回 国家財政について 11回 地方財政について 12回 租税について 13回 社会保障制度について 14回 財政政策について 15回 これからの日本経済		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。3)身につけたデザインの知識や多様なデザインリソースをもとに、企画・評価・提案を行い、人間社会に必要な価値を創造することができる(デザインマネジメント能力の修得)。【知識・理解】		
授業の到達目標	基礎理論をマスターするには、体系的な経済の学習が必要です。常に経済の全体像をイメージしながら、景気、株、為替、財政などの項目ごとの経済問題を分析できる。日常生活、これからのビジネスの場面で、日本の経済情勢を把握し、雇用や所得問題などに対応できるような強い経済理解力を獲得できる。		
指導方法	講義スタイルで行います。日々の経済ニュースに応じて映像資料も使用します。その後、トピックスについてグループディスカッションなどを行います。		
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:なし 毎回プリントを配布します。		
評価方法	授業参加態度30% 講義内小テスト70%		
受講上の注意	分からないところは、授業終了後に教室で質問を受け付けますので、積極的に尋ねてください。		
授業外における学習方法	経済の専門用語について、英語⇄日本語も含めて覚えるようにしましょう。配布プリントは必ず再読しましょう。		
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目:あり 2. 能動的授業科目種類:議論形式によるアクティブラーニング 3. 地域志向科目:なし 4. 地域志向科目内容:-		

授業年度	2017	シラバスNo	DX301A
講義科目名称	メディア文化論		
英文科目名称	Media Studies		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	宝珠山 徹		
開講意義目的	インターネットと携帯端末の普及によって、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌など従来からのコミュニケーション・メディアは、その根幹からの変容を迫られている。時代の大きな変わり目である今日において、情報メディアと生活・文化・社会のあり方について私たちはどのように考え、どのようなコミュニケーション環境を構想し、どのように生き延びればよいのだろうか。身近な視線から新たなビジョンの獲得をめざす。		
授業計画	1回 イントロダクション 授業の概要について、教科書『街場のメディア論』について 2回 キャリアは他人のためのもの ◎街場のメディア論： 仕事をするとはどういうことか、自分の能力について人は知らない 3回 マスメディアの嘘と演技 ◎街場のメディア論： テレビの存在理由、ラジオの危機耐性、高度情報社会と五感情報通信 4回 メディアと「クレイマー」 ◎街場のメディア論： 被害者であるという正義、無責任な権利、ありがとうが言えない社会、情報モラル 5回 「正義」の暴走 ◎街場のメディア論： 患者は「お客さま」か、暴走するメディア 6回 メディアと「変えないほうがよいもの」 ◎街場のメディア論： 世論と知見、買い物上手になる学生たち 7回 読者はどこにいるのか(1) ◎街場のメディア論： 本を読みたい人は減っていない、出版は内部から減る 8回 読者はどこにいるのか(2) ◎街場のメディア論： 不毛な著作権争い、書物は商品ではない、知的財産権とクリエイティブコモンズ・ライセンス 9回 贈与と読書 ◎街場のメディア論： 贈与と返礼、無償で読む人を育てよ 10回 わけのわからない未来へ ◎街場のメディア論： 「ただ」のものの潜在的価値、生き延びられるものは生き延びよ 11回 メディア文化論(1)： グループでの企画・調査・ディスカッション(1) 12回 メディア文化論(2)： グループでの企画・調査・ディスカッション(2) プレゼンテーション(発表)の準備 13回 メディア文化論(3)： プレゼンテーション(1)前半 14回 メディア文化論(4)： プレゼンテーション(2)後半 15回 まとめ メディア文化論、生き延びられるものは生き延びよ		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	現代社会における人間文化とコミュニケーション・メディアを展望し、情報を活用し自分の考えをもち行動できる能力を修得する。生活・社会・デザインにおいてそれらを選択的に活用できるデザイナー・エンジニア・デザイン実務者・生活者の育成をめざす。また教職課程としては、理論を活用し実践展開できる基礎技能・コミュニケーション能力、表現力等を修得する。		
授業の到達目標	情報環境・コミュニケーション環境への視線から、現代社会・生活・文化の諸相について展望し、新たな環境を生き抜く本質的な経験理解の獲得をめざす。		
指導方法	教科書の講読、映像資料等を交えた講義を中心に、授業内レポート、演習(グループディスカッション等)を進める。		
教科書・参考書	教科書：『街場のメディア論』内田樹(光文社新書) 参考書：『ネットとリアルのあいだ』西垣通(ちくまプリマー新書)、『情報デザイン入門—インターネット時代の表現術』渡辺保史、(平凡社新書：品切れ)		
評価方法	授業への参加度30%、授業内レポート等30%、期末試験40%による総合評価		
受講上の注意	デザイン学部(情報デザイン学科、建築学科)の「学部共通科目」である。 その回に扱う章は、事前に教科書を読んでくること。他の学生の迷惑になるため、私語には厳しく対処するので注意すること。 本科目は、高等学校一種免許状(情報)の教科に関する科目の中で「情報社会及び情報倫理」区分の必修科目に該当する。		
授業外における学習方法	生活の中でコミュニケーション・メディアについて関心をもち、様々な事柄について「メディア・文化」という観点から観察する。 教科書に目を通してこくこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無：なし 2. 能動的授業科目種類：— 3. 地域志向科目有無：なし 4. 地域志向科目内容：—		

授業年度	2017	シラバスNo	DX302A
講義科目名称	ユニバーサルデザイン		
英文科目名称	Universal Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	竜口 隆三		
開講意義目的	ユニバーサルデザインを実践するために、前半でバリアフリーの背景にある障害のある人の社会的活動など、基礎的な情報を学び、後半でアクセシビリティやバリアフリーとの考え方の違い、今日の少子高齢化社会におけるユニバーサルデザインの展開、「モノ」「家」「まち」さらに海外の事例を基にユニバーサルデザインを実践するために必要なプロセス、技術の基礎を学習する。		
授業計画	<p>1回 UDの授業の進め方 ユニバーサルデザインの基礎知識① バリアフリーとユニバーサルデザインの違い他</p> <p>2回 ユニバーサルデザインの基礎知識② ユニバーサルデザインの基本</p> <p>3回 UD「テーマパーク等のユニバーサルデザイン配慮」 東京新国際空港ターミナルビル・ディズニーランド&シーのUDについて</p> <p>4回 バリアフリーの基礎知識 障害の種類他</p> <p>5回 障害当事者の講話① 上肢障害、下肢障害他</p> <p>6回 障害当事者の講話② 視覚障害、聴覚障害他</p> <p>7回 福祉用具の必要性について 国内外の福祉用具の説明他</p> <p>8回 UD「使いやすいモノづくり①」 企業のUDへの取り組み(トヨタ・パナソニック・コクヨ・TOTO他)</p> <p>9回 UD「使いやすいモノづくり②」 いろんな機能を持ったUD商品の研究</p> <p>10回 UD「住みやすい家づくり①」 高齢者配慮のポイント他</p> <p>11回 UD「住みやすい家づくり②」 高齢者・障害者配慮の住宅改造事例紹介他</p> <p>12回 UD「暮らしやすいまちづくり①」: 行政の取り組み他 ユニバーサルデザインに注力している県や市。さらに交通機関等がどの様に取り組んでいるか</p> <p>13回 UD「暮らしやすいまちづくり②」: 小倉駅BF・UD探検隊(学外授業) JR小倉駅内で「バリアフル」「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン配慮」のグループで調査を行い、レポートを提出する</p> <p>14回 ビデオ鑑賞「難病と闘う子どもたち」 難病と闘っている子どもたちのビデオを観て、「ひとにやさしいところ」「ひとを思いやる気持ち」を持ち続ける意識を高める</p> <p>15回 UD「海外のユニバーサルデザイン」 デンマークやイギリスのユニバーサルデザイン配慮について</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>「主に次の能力を修得する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会とデザインとの関わりを幅広く理解することができる ・地域活性化に対する情報デザインの役割を理解することができる ・自主的かつ継続的にキャリアを形成する取り組みができる ・問題を構造的かつ客観的(科学的)にとらえ、創意工夫して問題解決に取り組むことができる ・人間社会にある様々な問題をデザインという側面から解決する技術力を有することができる ・構想・企画・立案・実践を通して、より高い付加価値を創造しマネージメントすることができる 		
授業の到達目標	<p>常にユニバーサルデザインの基本である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず「ひとを観る」「生活を観る」 ・次に「気づく」 ・気づいたら「創造的発想」で具現化を目指す <p>を常に意識できること。</p>		
指導方法	<p>「ひとにやさしいところ」「ひとを思いやる気持ち」を持った学生を育てること</p> <p>主に講義・演習形式で授業を進め、授業の理解度を深めるために学外授業を実施し、レポート提出を課す。</p>		
教科書・参考書	教科書:なし、参考書:なし(必ず講義内容のレジメを配付する)		
評価方法	授業参加・態度:50%、レポート提出:50%		
受講上の注意	どうすれば「ひとにやさしいところ」を意識せずに考えられるようになるか、自分の意識革命を起こす気持ちで授業に参加して欲しい。		
授業外における学習方法	障害当事者と触れ合うボランティア活動への参加、及びまちなか活性化活動へのボランティア参加		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 能動的授業科目:あり 2. 能動的授業科目種類:体験学習、調査学習、グループディスカッション 		

授業年度	2017	シラバスNo	DX303A
講義科目名称	人間工学 I		
英文科目名称	Ergonomics 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	中島 浩二		

開講意義目的	人間の特性を知らずにはデザインは不可能です。人体の寸法や形状だけではなく、生理、心理や行動特性までを学ぶことで、デザインの元となる幅広い知識を身につけることを目的とします。人間工学を専門に研究するような細かい内容ではなく、デザインに上手く取り入れた事例紹介を中心とします。		
授業計画	1回	【基礎編1】人間工学とは？ 便利でお得な学問 ・歴史 戦争は科学の父 ・いろいろな学問寄せ鍋 ・電車-地下鉄のデザイン	
	2回	【レポート1】 【基礎編2】人間工学的に優れたデザイン 【身近なところに人間工学】 ・自動販売機 ・キーボード ・いす	
	3回	【基礎編3】人間工学測定法 【人間をはかる様々な技術】 ・脳波 ・心電図 ・筋電図-カに比例・疲労 ・フリッカーテスト ・SSR ・モーションキャプチャ	
	4回	【基礎編4】ころろをはかる 【心理学を応用した様々な技術】 ・バウムテスト ・ロールシャッハ ・二重テスト ・官能テスト	
	5回	【基礎編5】感覚の人間工学 【視覚、聴覚をメインに関連する問題など】 ・手術服の色 ・色と心理 ・色の錯覚 ・色と味覚 ・カクテルパーティー効果	
	6回	【基礎編6】アフォーダンス 【アフォーダンスを利用したデザイン】 ・ついてしまうこと ・深澤直人 ・人にやさしいデザイン	
	7回	【応用編1】福祉の人間工学 【福祉用具、自助具デザインの紹介】 ・自助具 ・車いす(OX) ・シーティング	
	8回	【レポート2】 【応用編2】インターフェイスデザインの人間工学 【コンピュータ、IT関連における技術】 ・IBM事例 ・福祉関連ソフト	
	9回	【応用編3】スポーツの人間工学 【スポーツ科学の紹介、スポーツにおけるデザインと人間工学】 ・野球(カーブ、バッティング) ・サッカー ・パラリンピック	
	10回	【応用編4】インテリアの人間工学 【インテリアデザインに役に立つ情報】 ・福祉住環境コーディネータ ・カラーコーディネーター	
	11回	【応用編5】自動車の人間工学 【自動車開発で使われている技術】 ・キューブの窓 ・マツダのエアコンの取り組み ・レカロシート	
	12回	【応用編6】ロボットの人間工学 【ロボットと人間が共存する新しい社会】 ・パーソナルスペース ・人間らしい表情 ・アニマルセラピー ・食事支援 ・抱きかかえ	

	13回	【応用編7】ユニバーサルデザインの人間工学 【誰もが使いやすいデザインのための技術】 ・軍手をつけて ・TOTO実験室 ・キューマライン
	14回	【活用編】マインドマップ 【効果的な情報整理方法】 ・マインドマップの描き方 ・応用場面
	15回	まとめ 【これまでのまとめと課題説明】 ・レポート課題説明
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	2) 創意工夫力・問題解決力 社会的課題を発見し、幅広い知識と柔軟な思考でよりよい社会の実現に向けた解決策を提示することができる。【思考・判断・表現】 4) 実務型技術者としての実践力 社会人基礎力を身に付け、情報技術とテ？サ？インカテ？地域社会や産業界に貢献することができる。【知識・技能】	
授業の到達目標	・人間工学という学問を知り、どのようなところで活用されているかを認識できる ・デザインに限らずあらゆる職種に応用できる事例を把握できる	
指導方法	主にKeynoteを用いた座学です。途中いろんな質問をしますので、思ったことをしっかり発言してください。講義後にレポートの課題を出すことがあります。	
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：随時ご紹介します。	
評価方法	授業参加・態度：45% レポート：55%	
受講上の注意	・私語、携帯電話スマートフォン使用の禁止	
授業外における学習方法	・紹介書籍を必ず読む ・身の回りの人間工学的デザインを日常的に発見する ・身の回りの人とモノの問題を意識し、メモや撮影する習慣をつける	
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無：なし 2. 能動的授業科目種類：－ 3. 地域志向科目有無：なし 4. 地域志向科目内容：－	

授業年度	2017	シラバスNo	DX304A
講義科目名称	映像メディア論		
英文科目名称	Introduction to Media Informatics		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	趙彦		
開講意義目的	映像メディアの誕生、発達が人間の思想や認知、そして地域社会や国際社会(異文化コミュニケーション)の在り方にどのような影響を与えたのか、子供と映像メディアの関わり方や影響について学ぶことを目的とする。		
授業計画	<p>初め オリエンテーション 授業の進みと内容について</p> <p>講義1 映像の誕生と社会を取り巻く影響について</p> <p>講義2 映像の誕生と社会を取り巻く影響について 映像メディアの特性について(1) 社会を取り巻く情報メディアや映像メディアについて 国際社会を中心に (実習45分)</p> <p>講義3 映像メディアの特性について(2) 社会を取り巻く映像(情報)メディアについて 地域社会を中心に</p> <p>講義4 映像そして異文化コミュニケーションについて(1) 異文化コミュニケーションにおける映像(情報)メディアの役割について</p> <p>講義5 映像そして異文化コミュニケーションについて(2) 異文化コミュニケーションにおける映像(情報)メディアの役割について (実習45分)</p> <p>講義6 メディアとしての映像について 情報としての映像メディアについて</p> <p>講義7 日常生活における映像の役割について 映像メディアと関わり方について (日常生活を中心に)</p> <p>講義8 映像メディアを支える技術について(1) 映像メディアとコンピュータグラフィックスについて (コンピュータグラフィックスを中心に)</p> <p>講義9 映像メディアを支える技術について(2) 映像メディアとコンピュータグラフィックスについて (映像メディアを中心に)</p> <p>講義10 映像メディアを支える技術について(3) マルチメディアにおける映像の使い方について (マルチメディア機器を中心に)</p> <p>講義11 インターネット環境と映像メディアについて マルチメディアにおける映像の使い方について (インターネット環境を中心に)</p> <p>講義12 映像メディアがもたらす影響について(1) 広がるメディアと子供への影響について (映像とゲームを中心に)</p> <p>講義13 映像メディアがもたらす影響について(2) 広がるメディアと子供への影響について (映像とゲームを中心に)</p> <p>講義14 映像メディアの進化について 映像メディアの進化と変貌について</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。 建築学科の場合は、次の通りである。 4)実務型技術者としての実践力:生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。</p> <p>情報デザイン学科の場合は、次の通りである。 2)創意工夫力・問題解決力:社会的課題を発見し、幅広い知識と柔軟な思考でよりよい社会の実現に向けた解決策を提示することができる。 3)専門的知識・技術の活用力:社会の課題解決に向けて具体的な提案を的確に伝えることができる。 4)実務型技術者として</p>		
授業の到達目標	<p>①映像メディアを通し、異文化理解と正しく伝える表現方法について修得する。 ②子供と映像メディアの関わり方について修得する。</p>		
指導方法	理論と参考映像を中心に行う。		
教科書・参考書	<p>教科書:なし 参考書:講義内で適宜紹介する</p>		
評価方法	授業中の態度20%・レポート30%、最終課題提出50% 総合評価する。		
受講上の注意	<p>オフィスアワー以外では、メールで質問等を受け付ける。 choaun@nishitech.ac.jp メールの件名は「学籍番号 氏名 受講科目名」を記載のこと。 教職関係:本講義は、高等学校一種免許状(情報)の教科に関する科目(情報)の「マルチメディア表現及び技術」区分の必修科目に該当する。</p>		
授業外における学習方法	授業計画に記載している内容についてテーマや事前配布資料等をもとに調べておくとともに、前回の講義内容を復習した上で、講義に臨むこと。		
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:— 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:—</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	DX308A
講義科目名称	人間工学Ⅱ		
英文科目名称	Ergonomics2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	中島 浩二		
開講意義目的	前期「人間工学Ⅰ」で学んだことを利用して、人間工学の手法を取り入れたデザインを実践したり、体験を通して考え方を修得します。主にプロダクトデザインを対象にした学問ではありますが、インテリアや空間、レイアウト、Web、広告などあらゆるデザインの根幹となる考え方ですので、他のコースに進む場合でも有益です。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション どのように進めていくかの説明</p> <p>2回 西日本工業大学小倉キャンパスを人間工学的に考察する 自分たちが学んでいるキャンパスを人間工学的に評価することで、キャンパスのデザインを考察する。</p> <p>3回 人間工学的バランス 人が美しいと感じるバランスとは？ 人がかわいいと感じる要素は？ 人間の特性について考察する</p> <p>4回 ITの人間工学 わかりやすいアイコンをデザインしよう！ 間違いが起りにくい画面構成とは？ 使いやすく疲れにくい画面とは？</p> <p>5回 レイアウトの人間工学 書類や画面を構成する上で、人間の目の動き、心理特性、疲労などの観点から重要な要素をピックアップする</p> <p>6回 映像の人間工学 錯視や心理を利用した映像テクニック 映画に観られる心理学 人間工学的映画鑑賞</p> <p>7回 車いすの人間工学 車いすについて深く人間工学的に考察する 車いすのスポーツ</p> <p>8回 リモコンの人間工学的デザイン 身近な家電のデザインプロセスを体験 リモコンの問題点</p> <p>9回 ロボットの人間工学 ロボットのデザインプロセス 様々なロボットの映像 これからのロボット社会と問題点</p> <p>10回 型取り 福祉用具作成時や医療で使用される人体の立体コピーの方法を体験する</p> <p>11回 心理学応用 人間工学周辺学問である心理学についてのデザインへの応用や、実生活への応用について考察する</p> <p>12回 プレゼンテーション 聴きやすいプレゼン Keynoteについて 音のないプレゼン</p> <p>13回 脳科学 最新の脳科学トピックス 脳の右側で描く ブレイン-マシンインタフェイス</p> <p>14回 仕事の人間工学 オフィスの工夫 働きやすさ モチベーションアップ法</p> <p>15回 まとめ これまでのまとめと課題説明 ・レポート課題説明</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	3)専門的知識・技術の活用力 社会の課題解決に向けて具体的な提案を的確に伝えることができる。【知識・技能】 4)実務型技術者としての実践力 社会人基礎力を身に付け、情報技術とデ？サ？インカテ？地域社会や産業界に貢献することができる。【知識・技能】		
授業の到達目標	・デザインにおける人間工学の重要性を認識する ・デザイン活動において人間生活に立脚した考え方ができる		
指導方法	各時間、実際に手を動かしてもらい、アイデアを短時間で出してもらいます。 また車いすの実習や型取りなどの作業もあります。		
教科書・参考書	特にありません。 適宜参考情報を提供します。		
評価方法	授業参加・態度:40% レポート:60%		
受講上の注意	積極的な発言、行動を期待します。 色鉛筆などの画材があるとよりよい実習ができます。		
授業外における学習方法	・紹介書籍を必ず読む ・身の回りの人間工学的デザインを日常的に発見する ・身の回りの人とモノの問題を意識し、メモや撮影する習慣をつける		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:一 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:一		

授業年度	2017	シラバスNo	DX309A
講義科目名称	生活と環境		
英文科目名称	Life and Environmental Issues for People		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	高柳 弥生		
開講意義目的	わたしたちの生活にとって必要な「衣食住」と「ものづくり」とを考えるときに、さまざまな問題、そしてその上更に地域規模や世界規模の社会課題に直面します。「ものづくり」はそうした問題に沿いながら問題を解決しながら「イノベーション」という、画期的な案をスケッチし、それをカタチにしていく過程です。授業ではものづくりの原点ともなる問題を拾い上げ、21世紀現代の生活と環境の中で人が快適にインクルーシブでいられる手法を社会工学的に探ります。デザインとは人社会の中で問題解決のためにカタチを生み出す作業であることを学習しま		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 授業の流れを説明します。われわれが生きている周りへ感性を尖らせてみます。</p> <p>2回 環境問題について(1)【Global issue】 地球が生まれて今にいたるまでの環境問題を取り上げます。 テーマ: 持続可能な社会とは</p> <p>3回 環境問題について(2)【Global issue】 環境問題を全世界で考えなければならないとき、先進国、新興国、発展途上国の問題を取り上げます。 テーマ: 地球温暖化問題とエネルギー問題</p> <p>4回 社会問題について(1)【Social Issue】 地球全体の環境の中でわたしたち社会に多々問題が派生していること、社会問題について自らの観点・感性でどうしたらよいかマッピングの作業にトライします。 テーマ: 日本の中での少子高齢化問題</p> <p>5回 社会問題について(2)【Social Issue】 地球全体の環境の中でわたしたち社会に多々問題が派生していること、社会問題について自らの観点・感性でどうしたらよいかマッピングの作業にトライします。 テーマ: 日本のエネルギー利用の今後の問題</p> <p>6回 社会問題について(3)【Social Issue】 地球全体の環境の中でわたしたち社会に多々問題が派生していること、社会問題について自らの観点・感性でどうしたらよいかマッピングの作業にトライします。 テーマ: 地域格差の利便</p> <p>7回 社会問題について(4)【Social Issue】 地球全体の環境の中でわたしたち社会に多々問題が派生していること、社会問題について自らの観点・感性でどうしたらよいかマッピングの作業にトライします。 テーマ: 高齢者社会と地方創生</p> <p>8回 人の生活を知る(1)【Life Design】 家庭・家というのは社会の最小ユニットです。人の生活は現在の環境・社会でどう変わりつつあるでしょうか？ テーマ: 家、建築、シェアハウス、空き家利用(変わりつつある居住空間の変遷)その1</p> <p>9回 人の生活を知る(2)【Life Design】 家庭・家というのは社会の最小ユニットです。人の生活は現在の環境・社会でどう変わりつつあるでしょうか？ テーマ: 家、建築、シェアハウス、空き家利用(変わりつつある居住空間の変遷)その2</p> <p>10回 人の生活を知る(3)【Life Design】 家庭・家というのは社会の最小ユニットです。人の生活は現在の環境・社会でどう変わりつつあるでしょうか？ テーマ: 家、建築、シェアハウス、空き家利用(変わりつつある居住空間の変遷)その3</p> <p>11回 EU諸国の生活について 世界を見てみましょう。エコに富み再生可能エネルギーを使いこなすデンマークなど、農業国にスポットを当てます。</p> <p>12回 欧米の生活について 世界を見てみましょう。欧米の合理的なワーキングスタイルにふれます。 ICTについてふれます。</p> <p>13回 最先端のICT活用について ICTとは何でしょう。情報が街を創る、グリーンシティ構想は可能でしょうか？ これからのICT技術についてみていきます。</p> <p>14回 北九州市のこと わが町わがタウンの問題点を探りましょう。そしてそれを解決するために問題解決型アイデアの出し方を伝授します。</p> <p>15回 復習 全体のオーバービューです。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>建築学科の場合は、次の通りである。</p> <p>4)実務型技術者としての実践力: 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。</p> <p>情報デザイン学科の場合は、次の通りである。</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力: 社会的課題を発見し、幅広い知識と柔軟な思考でよりよい社会の実現に向けた解決策を提示することができる。</p> <p>4)実務型技術者としての実践力: 社会人基礎力を身につけ、情報技術とデザイン力で地域社会や産業界に貢献することができる。</p>		
授業の到達目標	<p>【問題を解きほぐすことは自らの知恵を絞ること】</p> <p>世界のさまざまな問題を拾い上げて、問題マップを作り、つなげ広げて、その課題解決策という提案を出していく、こうした問題に対する考え方が柔らかくなるという、柔軟な思考性を身に付けることができます。自らの周りにネタとヒントがいつもあるということが発見できます。</p>		
指導方法	<p>【問題解決のそれぞれのステップを視覚化する】</p> <p>まずさまざまな地球に存在する問題を探っていきます。問題に対してどうしたらが毎回の授業のケーススタディです。そして、国際的な社会問題から問題の地図を作り、人という当事者を考えていく、マッピングやドールドル(絵や図にする)で問題の視覚化ができるようになるよう指導していきます。</p>		
教科書・参考書	<p>教科書: なし</p> <p>参考書: 「環境の可視化」—地球環境から生活環境まで 放送大学教育振興会 2015 3月出版</p>		
評価方法	<p>授業参加・態度: 60% レポート: 40% とします。</p>		

受講上の注意	2回遅刻で欠席1回とします。※遅刻しないこと。 無駄話は慎むこと。
授業外における学習方法	日常から生活と環境に関して問題点があればメモやスケッチしていきましょう(よく自分の日常と世界の動向などを見ていてください)。 ※オフィスアワー以外では、メールで質問等を受け付けます。 takayana@nishitech.ac.jp メールの件名は「学籍番号 氏名 受講科目名」を記載のこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:なし 3. 地域志向科目有無:あり 4. 地域志向科目内容:地域の課題が事例になるので地域に役立つよう内容を掘り下げます。

授業年度	2017	シラバスNo	DX310A
講義科目名称	企業経営論		
英文科目名称	Management		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	梶谷 克彦		
開講意義目的	<p>①企業経営の知識習得により、企業人の組織的背景を理解する。 ②現在の企業経営に求められるイノベティブな発想には、該当学部受講者が学ぶ「デザイン」の思考が活かされることを理解する。 ③就職活動時における企業理解促進を行う。 ④ディスカッションによるコミュニケーション力を身につける。</p>		
授業計画	<p>1回目 会社とはなんだろう？ ①参加者がこの時点で感じている「会社」のイメージをディスカッションによりレビュー。 ②会社の仕組み、様々な会社の形態についての学習を行う。 ③最終レポートの説明を行い、授業目標の共有化を行う。</p> <p>2回目 株式会社とは？ 株式会社の仕組み コーポレートガバナンス</p> <p>3回目 経営理念とは？ 企業理念 企業ドメイン 企業戦略</p> <p>4回目 いかに競争するか？ マクドナルドとモスバーガーのケースステディ</p> <p>5回目 組織形態 職能別組織 事業部制 マトリックス組織</p> <p>6回目 どうやったら売れる？① 中華料理店をケースとした企業戦略</p> <p>7回目 どうやったら売れる？② マーケティング</p> <p>8回目 中間テスト 今までの小テスト</p> <p>9回目 ブランディング① ブランディング</p> <p>10回目 ブランディング② インナーブランディングと社員意識</p> <p>11回目 情的資本主義 アメリカ型企業と日本型企業 これからの企業</p> <p>12回目 ドメインの再定義 ドメインの再定義 株主主権(導入)</p> <p>13回目 会社はヒト？モノ？ 株主主権論</p> <p>14回目 理想の会社とはなにか？ 今までの講義を振り返り、自分にとってどのような会社が理想であるかをディスカッション。(レポート提出)</p> <p>15回目 未来の経営とは何か？ 全体の振り返りと期末試験</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>建築学科の場合は、次の通りである。 4)実務型技術者としての実践力:生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。</p> <p>情報デザイン学科の場合は、次の通りである。 2)創意工夫力・問題解決力:社会的課題を発見し、幅広い知識と柔軟な思考でよりよい社会の実現に向けた解決策を提示することができる。 4)実務型技術者としての実践力:社会人基礎力を身につけ、情報技術とデザイン力で地域社会や産業界に貢献することがで</p>		
授業の到達目標	<p>①企業経営知識 新聞・ニュース・広告等で情報伝達される企業活動の意味を読み解く力を身につける。 21世紀の企業のあり方に関する意識を身につける。 ②コミュニケーション力 留学生:日本語によるディスカッション力を身につける。 日本人学生:ファシリテーション能力を身につける。</p>		
指導方法	<p>パワーポイントによる説明。 ディスカッションによる対話。 レポートによる到達確認。</p>		
教科書・参考書	<p>なし 資料を適宜配布する。</p>		
評価方法	<p>授業態度(20%) ディスカッション参加度(30%) 中間期末テスト(30%)レポート(20%)</p>		
受講上の注意	<p>ディスカッション時には、必要に応じて携帯電話にてweb検索を許可する。</p>		
授業外における学習方法	<p>講義内で指示したレポートの作成。</p>		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式 のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無:あり 4. 地域志向科目内容:あり
---------------------	--

授業年度	2017	シラバスNo	DX311A
講義科目名称	北九州学		
英文科目名称	Kitakyushu City Studies		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	野崎 伸一		
開講意義目的	デザイン学部は北九州市の中心である小倉北区に位置し、建築やデザインに関する情報発信基地となるべく発展しつつあるが、さらなる発展のためには、地元・北九州市とのより有機的な連携が必要である。そのためには、北九州市の文化・歴史的な背景や北九州市が置かれている状況等を正確に把握しておくことが求められる。そこで、本講義において、様々な切り口から北九州市役所の将来を担う中堅職員の方々の講義を受講し、北九州市を広く眺めることによって、「北九州市の何たるか」を理解する一助とする。		
授業計画	第1回	北九州学の受講について 西日本工業大学 野崎伸一	
	第2回	本講義の目的と概要について 北九州市とは 北九州市教育長 垣迫裕俊	
	第3回	総論、歴史、産業、シビックプライドについて シティプロモーション政策 財政・西部市税事務所 三輪真也	
	第4回	ふるさとかるた、地域再発見について 産業政策(1) 産経・食の魅力創造・発信室 中原田香織	
	第5回	食の魅力の創造発信について 産業政策(2) 産経・産業政策課 小矢元晴	
	第6回	北九州市の新成長戦略について 観光政策 産経・観光課 奥栄治	
	第7回	集客、観光、コンベンションについて 環境政策(1) 環境・環境科学研究所 江藤優子	
	第8回	公害、国際協力、エコタウン、廃棄物について 環境政策(2) 環境・環境監視課廣瀬純子	
	第9回	低炭素、スマートコミュニティ、環境未来都市について 国際政策 企画調整・国際政策課 鈴木啓介	
	第10回	都市間ネットワーク、海外ビジネス展開、多文化共生について 文化政策 北九大・経営企画課小島邦裕	
	第11回	文化・芸術振興、都市デザインについて 交通・物流政策 港湾空港・空港企画課 田中啓之	
	第12回	道路、公共交通、空港、港湾について 都市政策 建築都市・都市計画課 井上賢	
	第13回	人口減少時代のまちづくりについて 福祉政策	

	<p>保健福祉・総務課吉武祐輝</p> <p>高齢者、障害者、次世代支援、ソーシャルインクルージョンについて</p> <p>第14回 市民活動推進政策 市文・市民活動推進課 管田智章</p> <p>市民と行政との協働によるまちづくりについて</p> <p>第15回 まとめ：北九州学で学んだこと 西日本工業大学 野崎伸一</p> <p>総括</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>建築学科では</p> <p>4)実務型技術者としての実践力 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。</p> <p>情報デザイン学科では</p> <p>4)実務型技術者としての実践力 社会人基礎力を身につけ、情報技術とデザイン力で地域社会や産業界に貢献することができる。</p>
授業の到達目標	北九州市の各分野の基礎を学ぶことにより、地域に対し理解が深まる。
指導方法	学外の専門家(北九州市役所の将来を担う中堅職員)が担当する。 いわゆるオムニバス形式で講義を行う。
教科書・参考書	教科書と参考書はなし。毎回、プリントを配布する。
評価方法	総括レポート提出60%、授業態度40%で評価する。
受講上の注意	授業開始後30分以上の遅刻は欠席扱いとする。遅刻3回は欠席1回として扱う。講義中にスマホを使用している学生は退出させる。
授業外における学習方法	北九州市の理解を深めるため、時間があれば「カメラ」「筆記用具」「スケール」を持って市内を動き回ること。
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目：なし</p> <p>2. 地域志向科目：あり</p>

授業年度	2017	シラバスNo	DX312A
講義科目名称	観光産業論		
英文科目名称	Theory of Tourism Industry		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	内田 恵里子		
開講意義目的	日本では、人口減少に伴って新たな地域活性化策の一環として観光をキーワードに促進している。観光産業の著しい成長により、新たな観光ビジネスの振興並びにこれに係る観光産業の在り方、活性化策を考えていくことが本講義の目的である。つまり、社会から求められる観光動向を知るとともに、それに対処していくための基礎的学力の向上を目指す。		
授業計画	<p>1回 イントロダクション</p> <p>2回 講義の目的や観光産業の動向について</p> <p>3回 観光ビジネスの構図や経営について</p> <p>4回 観光ビジネスの重要性や機能、種類について</p> <p>5回 観光マーケティングについて～その1</p> <p>6回 観光マーケティングの考え方や戦略</p> <p>7回 観光マーケティングについて～その2</p> <p>8回 観光マーケティングの新たな展開と動向</p> <p>9回 わが国の観光政策と観光行政 及びレポート課題提出(一回目)</p> <p>10回 明治期からの外貨獲得策としての観光政策から、2007年1月施行の「観光立国推進基本法」に至るわが国の観光施策の動向、これに関連する業界の動向について講義</p> <p>11回 観光業界の動向 及びレポート課題の講評</p> <p>12回 現在の観光関連業界(運輸、空港、ホテル、旅館、リゾート施設、飲食施設、外食産業、旅行取扱会社、テーマパーク等)の動向について講義</p> <p>13回 観光政策、観光施策の展開事例①</p> <p>14回 観光振興策の実例の講義</p> <p>15回 観光政策、観光施策の展開事例②</p> <p>16回 観光振興策の実例を講義</p> <p>17回 観光とサービスマネジメント 及びレポート課題提出(二回目)</p> <p>18回 サービスマネジメントの在り方並びにサービスにおけるホスピタリティについて</p> <p>19回 農水産物直売所の展開事例(1) 及びレポート課題の講評</p> <p>20回 地域資源の活用の最たるものは、「道の駅」等に併設される農水産物の直売所です。私が関与した実例を中心に、事業展開のケーススタディを行ない、その課題や問題点、競合激化が予想される将来のあり方について講義します。</p> <p>21回 北九州市の観光政策の展開事例(2)</p> <p>22回 北九州市の観光施策の現状と展開</p> <p>23回 観光産業の事例紹介(1)</p> <p>24回 旅行業の事例の紹介</p> <p>25回 観光産業の事例紹介(2)</p> <p>26回 航空業・鉄道業の事例の紹介</p> <p>27回 観光産業の事例紹介(3) 及びレポート課題提出(三回目)</p> <p>28回 ホテル・飲食業の事例の紹介</p> <p>29回 期末試験、試験内容の解説 及びレポート課題の講評</p> <p>30回 期末試験およびその解説、レポート課題の講評、また講義で最も重要な点について再度解説する。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本講義は、以下の教育目標との対応科目である。 4)実務型技術者としての実践力 社会人基礎力を身に着け、情報技術とデザイン力で地域社会や産業界に貢献することができる。 【知識・技能】		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ビジネスの概念と特性を理解する。 ・観光産業におけるマーケティング戦略を理解する。 ・地域振興と観光の関係を理解する。 ・まちと観光の関係を理解する。 		
指導方法	講義と演習を組み合わせる。講義では、パワーポイントを使って具体的な内容について講義をします。要点などは、パワーポイントを印刷物として配布して講義中に内容の補足を記入させる。 演習では、グループ単位に分かれワークやディスカッションを行うことで学習を深める。 毎週、講義の初めに前回の復習と講義の最後に次週の講義の解説を行う。さらに、複数回(三回)のレポート提出とする。		
教科書・参考書	教科書:必要に応じて資料配布する。 参考書:長谷政弘著、「観光ビジネス論」、同友館		
評価方法	評価は、課題提出が3回:30%、期末試験50%、授業参加・態度20%とする。		
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の最後に質問時間を設けるので、その場で解決すること。 ・オフィスアワー以外では、メールでの質問等を受け付ける。 eriko@nishitech.ac.jp ・メールの件名は「学籍番号・氏名・受講科目名」を記載すること。 ・講義開始後30分以上の遅刻や無断で途中退室した場合は、欠席扱いとする。また、遅刻3回は欠席1回として扱う。 		
授業外における学習方法	毎週、講義の最後に次週の講義内容に関する専門用語の意味を事前に調べ、内容を把握しておくこと。 また、下記に記載した新聞、インターネットなどを活用して予習・復習を自主的に行うこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞等マスコミにおける観光関連の報道に注意を払うこと。 ・自治体の観光関連施策の展開をウェブサイトからチェックすること。 ・観光関連産業の動向をウェブサイトからチェックすること。 		
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:グループ形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無:あり 4. 地域志向科目内容:北九州市の観光施策の動向 		

授業年度	2017	シラバスNo	DX501A
講義科目名称	インテリアデザイン		
英文科目名称	Interior Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	石垣 充		
開講意義目的	人間の生活の場である室内、インテリア空間における尺度寸法、家具、材料、構法などの基礎知識を学ぶ。最初に家具や住居を中心としたインテリアデザインや人々の暮らしのカタの歴史を学び、インテリアデザインと生活様式の変遷を理解する。次に空間の仕上げについて、木質系素材、左官、タイル、ガラス等の具体的な材料の性質と特徴について学ぶ。更に人体寸法、姿勢、作業域、動作空間といった空間と人間の関係や大きさに関する講義を展開する。終結部としてインテリアデザインの資格試験としてのインテリアコーディネーターについて紹介する。		
授業計画	1回 導入部 インテリアデザインとは／インテリアデザインの発生／インテリアデザインに関する職業(映像資料) 2回 インテリアデザインの変遷-1 日本の住環境について 原始住居／寝殿造りと調度／書院造りと装置／数寄屋造り／庶民の生活と収納具／西洋館とその影響／第二次世界大戦後の住宅/小テストと解説 3回 インテリアデザインの変遷-2 現代社会と住空間 日本の住宅と暮らしのカタについて/小テストと解説 4回 インテリアデザインの変遷-3 インテリア史概説 西洋建築の歴史／インテリアデザイン、古代／中世／近世/小テストと解説 5回 インテリアデザインの変遷-4 近代1 産業革命／19世紀/小テストと解説 6回 インテリアデザインの変遷-5 近代2 近代/小テストと解説 7回 空間としてのインテリア-1 インテリアと構法 建築の構造とインテリア/インテリアの構法/小テストと解説 8回 空間としてのインテリア-2 材料と仕上げ1 木質系素材/小テストと解説 9回 空間としてのインテリア-3 材料と仕上げ2 左官/タイル/ガラス/小テストと解説 10回 空間としてのインテリア-4 開口部1 開口部の種類/小テストと解説 11回 空間としてのインテリア-5 開口部2 開口と造作/ウインドウトリートメント/繊維製品/小テストと解説 12回 大きさのデザイン-1 寸法とモジュール 人体寸法/人体寸法と設計/小テストと解説 13回 大きさのデザイン-2 人間工学と行動心理 姿勢/作業域/動作空間/小テストと解説 14回 エレメントとしてのインテリア 椅子のデザインについて 脚物家具と箱物家具/20世紀の椅子デザイン/小テストと解説 15回 終結部 インテリアデザイン資格試験について/インテリアの仕事紹介		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。建築学科の場合は、次の通りである。3) 専門的知識・技術の活用力: 建築士(1級建築士、2級建築士)の資格取得に必要な基本的知識・技能・技術を習得し、資格取得に対応できる。4) 実務型技術者としての実践力: 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。情報デザイン学科の場合は、次の通りである。2) 創意工夫力・問題解決力: 社会的課題を発見し、幅広い知識と柔軟な思考でよりよい社会の実現に向けた解決策を提示することができる		
授業の到達目標	生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけることができる。		
指導方法	特に教科書を用いないが下記参考書に基づき授業を進める(購入の義務無)。 必要に応じて適宜資料を配布し、スライドや映像資料等を用い理解度を深める。		
教科書・参考書	参考書:「世界で一番かわいいインテリア」和田浩一他著 株式会社エクスナレッジ		
評価方法	成績評価の比率は、小テスト(スケッチ等提出物を含む)30%、授業参加・態度20%、定期試験50%とする。		
受講上の注意	小テストとしてスケッチを行う場合がある。三角スケール等の製図道具を各自持参すること。 小テスト用紙配布時に不在の学生に対して再配布を行わない。(欠席扱い) 私語等が多い学生に対して退室を求める場合がある。(欠席扱い) 5回以上の欠席した場合は「不可」扱いとする。 授業の進行状況により授業内容を変更することがある。		
授業外における学習方法	授業計画に記載している内容に沿い、参考書などにより事前に予習しておくこと。 小テストとしてスケッチパースを描く場合がある。理解度を深めるため各自復習すること。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	能動的授業科目有無:なし 能動的授業科目種類:一 地域志向科目有無 :なし 地域志向科目内容 :一		

授業年度	2017	シラバスNo	DX502A
講義科目名称	景観デザイン		
英文科目名称	Landscape Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	三笠 友洋		
開講意義目的	この科目では、景観に関する基礎的概念や制度、デザイン手法等に関する講述と並行してフィールド観察とデザイン演習を行うことで、さまざまな都市や地域、集落景観の成り立ちや課題を理解し、そのデザインの手法について学習することを目的とする。		
授業計画	<p>1回 インTRODクダクシヨ 授業の目的、進行について説明する。</p> <p>2回 景観という概念 景観という概念とその近接概念について解説する。</p> <p>3回 景観の捉え方 さまざまな景観の捉え方について解説する。</p> <p>4回 景観をデザインすること 景観をめぐる課題と景観デザインの意義について解説する。</p> <p>5回 景観の成り立ち(1) 農山漁村集落景観の成り立ちについて、さまざまな事例をあげて解説する。</p> <p>6回 景観の成り立ち(2) 都市景観の成り立ちについて、さまざまな事例をあげて解説する。</p> <p>7回 景観読み取りフィールドワーク(1) 北九州市内の都市景観を観察調査し、その特徴や課題について考える。</p> <p>8回 景観読み取りフィールドワーク(2) 調査した景観事例について発表し、その特徴について議論する。</p> <p>9回 景観デザインの手法(1) 街並み景観のデザイン手法や関連制度について解説する。</p> <p>10回 景観デザインの手法(2) 広場や街路の景観デザインの手法について解説する。</p> <p>11回 景観デザインの手法(3) 自然景観の保全再生のデザインと関連制度について解説する。</p> <p>12回 景観デザイン演習(1) 北九州市内の特定地区を対象に景観デザインの方針づくりグループワークを行う。</p> <p>13回 景観デザイン演習(2) グループワークによるデザイン方針に基づき、具体的デザイン対象を決め景観デザイン提案をつくる。</p> <p>14回 景観デザイン演習(3) デザイン提案の発表と講評およびディスカッションを行なう。</p> <p>15回 景観デザイン演習(4) デザイン提案の発表と講評およびディスカッションを行なった上で、授業全体のまとめのディスカッションを行う。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>建築学科の場合は、次の通りである。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力: 建築士(1級建築士、2級建築士)の資格取得に必要な基本的知識・技能・技術を習得し、資格取得に対応できる。</p> <p>4) 実務型技術者としての実践力: 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。</p> <p>情報デザイン学科の場合は、次の通りである。</p> <p>2) 創意工夫力・問題解決力: 社会的課題を発見し、幅広い知識と柔軟な思考でよりよい社会の実現に向けた解決策を提示する</p>		
授業の到達目標	さまざまな景観を構成する要素とその成り立ちを理解するとともに、景観デザインの手法について理解する。		
指導方法	<p>パワーポイントを使用して参考文献や実例をできるだけビジュアルで示し、視覚的に理解を促す。</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>フィールドワークや演習をとりいれ、インタラクティブな授業とする。</p>		
教科書・参考書	授業の中で必要に応じて参考図書を紹介する。		
評価方法	授業参加・態度20%、レポート20%、成果発表60%として評価する。		
受講上の注意	ディスカッションやグループワークを行なう為、自主的、積極的な受講姿勢が求められる。		
授業外における学習方法	授業で解説した事例について文献等で復習しノートにまとめること。レポートや提案作成にあたっては図書館等で資料・文献を調べ参考にすること。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>能動的授業科目有無: あり</p> <p>能動的授業科目種類: グループワーク形式および調査学習形式のアクティブラーニング</p> <p>地域志向科目有無: あり</p> <p>地域志向科目内容: 北九州地域の景観デザインに関する課題、制度、事例の学習</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	DX503A
講義科目名称	空間デザイン		
英文科目名称	Space Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位	選択
担当教員	岡田 知子		
開講意義目的	人間と空間のかかわりあいについて知覚特性、行動特性、集合特性、文化特性の視点から解説する。		
授業計画	<p>1回 インTRODクシヨソ 講義の内容とすすめ方について説明する。</p> <p>2回 人間の知覚特性(1) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・錯覚、錯視 ・奥行きと立体感、パースペクティヴ</p> <p>3回 人間の知覚特性(2) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・視線、視野、視覚 ・障りとヴィスタ</p> <p>4回 人間の知覚特性(3) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・黄金分割とルート矩形 ・プロポーション</p> <p>5回 人間の知覚特性(4) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・視覚の相対性と恒常性 ・知覚像のゆがみ</p> <p>6回 人間の知覚特性(5) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・色の心理的効果</p> <p>7回 人間の知覚特性(6) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・色の心理的効果</p> <p>8回 人間の行動特性(1) 人間の行動特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・パーソナルスペース ・集合特性</p> <p>9回 人間の行動特性(2) 人間の行動特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・なわばり行動とテリトリー ・まもりやすい空間</p> <p>10回 人間の行動特性(3) 人間の行動特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・プライバシーとコミュニケーション ・プライバシーと空間</p> <p>11回 人間の行動特性(4) 人間の行動特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・文化と行動特性</p> <p>12回 文化と空間概念(1) 文化と空間のかかわりあいについて下記のテーマで解説する。 ・砂漠と密林 ・「奥」の思想</p> <p>13回 文化と空間概念(2) 文化と空間のかかわりあいについて下記のテーマで解説する。 ・照葉樹林文化論 ・イネと麦</p> <p>14回 文化と空間概念(3) 文化と空間のかかわりあいについて下記のテーマで解説する。 ・方位観 ・聖なる方向</p> <p>15回 期末試験、試験内容の解説 期末試験およびその解説をする</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>3) 専門的知識・技術の活用力 建築士(1級建築士、2級建築士)の資格取得に必要な基本的知識・技能・技術を習得し、資格取得に対応できる。</p> <p>4) 実務型技術者としての実践力 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。</p>		
授業の到達目標	生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につける。 建築士(1級建築士、2級建築士)の資格取得に必要な基本的知識・技能を習得する。		
指導方法	ビジュアルに講義を行う。		
教科書・参考書	各回の講義で適宜資料を配布する。参考書は「集住の知恵ー美しく住むかたち」日本建築学会編、技報堂出版。		
評価方法	受講態度10%、試90%		
受講上の注意	質問用紙に記入すれば次週、質問に答える。		
授業外における学習方法	公開している講義内容を事前に見ておくこと。 参考書を事前に読んでおくこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無: なし</p> <p>2. 能動的授業科目種別: ー</p> <p>3. 地域志向科目有無: あり</p> <p>4. 地域志向科目内容: 福岡地域の伝統的空間の学習(一部)</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	DX504A
講義科目名称	経営組織		
英文科目名称	Business Organization		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	内田 恵里子		

開講意義目的	<p>現状の企業を巡る情勢は、非常に急速な変化をしており、その中で経営を行うには企業組織の在り方が売上げを左右するといっても過言ではない。そこで、ビジネス社会で働く上での多様な組織論や組織における文化などを探求することで様々な経営に関わる組織形態の習熟を図ることを目的とする。経営組織の学習を通じて、実社会での経営組織に関する基礎的学力の向上を目指す。</p>		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション 学習目的並びに目標、グランドルールについて</p> <p>①経営組織をなぜ学ぶのか。企業における組織とは一体何であるのか。 身近な企業組織の事例などを考察しながら、企業組織の現状について学習する。</p>	
	第2回	<p>組織論基礎① 経営組織の現状と日本の組織のあり方について学習する。 主に、経営組織の基本形態の学習を行う。</p> <p>①組織の成立 ②組織に関する要素 組織の3要素とは</p>	
	第3回	<p>組織論基礎② 経営組織の現状と日本の組織のあり方について学習する。 主に、経営組織の基本形態の学習を行う。</p> <p>①機能部門の形成と階層について ②ライン組織、ファンクショナル組織、スタッフ組織について</p>	
	第4回	<p>組織論基礎③ ①機能部門組織 ②事業部制組織、カンパニー制組織</p> <p>各種組織形態について、実際の企業事例(1)を紹介する。</p>	
	第5回	<p>組織論基礎④ 及び小テストの実施と試験内容の解説 ①機能部門組織とは ②事業部制組織、カンパニー制組織とは</p> <p>上記復習並びに各種組織形態について、実際の企業事例(2)を踏まえて学習する。 第1回～第5回までの復習並びに小テストの実施並びに試験の解説を行う。</p>	
	第6回	<p>組織目標と構造① 組織目標並びに組織構造の概要について学習する。</p> <p>さらに、日本型組織と欧米型組織のそれぞれの特徴について比較検討する。</p> <p>課題として、各自企業での組織形態の企業事例の調査を行う。</p>	
	第7回	<p>組織目標と構造② 第1回～第6回までの講義の復習を行う。</p> <p>課題として提示した企業事例の各自プレゼンテーションの実施を行う。 終了後、調査についてディスカッションを行う。</p>	
	第8回	<p>非営利・営利組織とは 公的組織の形態について 非営利組織の特徴並びに課題点について学習する。</p> <p>さらに、非営利組織と営利組織の比較検討を行う。 課題として、非営利組織と営利組織の違いについて調べる。</p>	
	第9回	<p>組織理論① 組織に関する理論的な位置づけを学習することで、理論的背景に裏付けされた組織としての在り方や方向性を検討する。その代表理論として、下記3理論に関して学習する。</p> <p>①官僚制組織</p>	
	第10回	<p>組織理論② 組織に関する理論的な位置づけを学習することで、理論的背景に裏付けされた組織としての在り方や方向性を検討する。その代表理論として、下記3理論に関して学習する。</p> <p>②近代組織論</p>	
	第11回	<p>組織理論③ 及び小テスト実施と試験内容の解説</p>	

	<p>組織に関する理論的な位置づけを学習することで、理論的背景に裏付けされた組織としての在り方や方向性を検討する。その代表理論として、下記3理論に関して学習する。</p> <p>③コンティンジェンシー理論 小テストの実施並びに試験内容の解説を行う。</p> <p>組織理論の復習並びに小テストの実施。</p>
第12回	<p>組織文化① 企業経営における組織文化の成り立ちと現状について学習する。 ①組織文化とは</p> <p>演習課題として、企業における組織文化がもたらす現状について調査を行う。</p>
第13回	<p>組織文化②③ 企業経営における組織文化の成り立ちと現状について学習する。</p> <p>②組織文化の特徴 ③課題点</p> <p>演習課題として、企業における組織文化がもたらす現状について調査結果のプレゼンテーションを行う。</p>
第14回	<p>組織における経営戦略① 組織活動における戦略との位置づけについて学習する。</p> <p>①経営戦略の基礎的知識 ②戦略と組織運営との関わりについて ③実際の企業事例の紹介</p>
第15回	<p>期末試験と試験の解説 講義全般に関する期末試験の実施する。試験後に要点の解説並びに講義全般のまとめと今後の組織経営の展望について説明する。</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本講義は、以下の教育目標との対応科目である。 4)実務型技術者としての実践力 社会人基礎力を身に着け、情報技術とデザイン力で地域社会や産業界に貢献することができる。 【知識・技能】</p>
授業の到達目標	<p>①経営全般に関する知識を深めることができる。 ②ビジネス社会で求められる組織の目標、構造、文化などの学習理解を深めることができる。 ③組織で求められる人材やあり方など俯瞰した視点での観点から学問的示唆を得ることができる。</p>
指導方法	<p>主に講義を中心とし、小テストや課題レポートを実施する。さらに、講義内容の復習を毎回行うことで、さらなる学習を促進させる。また、随時、課題を出し、その課題に対して考察する機会を提供する。 各回の講義においては、グループ単位でのディスカッションやプレゼンテーションを織り込みながら、自主的に発言する能力を育成する。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：なし。但し資料として、講義プリントを配布する。 参考書：金井壽宏著、「経営組織」、日経文庫</p>
評価方法	<p>下記、評価基準とする ①期末試験の実施(40%) ②講義での課題提出(2回)並びに小テスト(2回)による評価(40%) ③積極的な発言、講義姿勢などの総合的な評価(20%)</p>
受講上の注意	<p>・講義の最後に質問時間を設けるので、その場で解決すること。 ・オフィスアワー以外では、メールでの質問等を受け付ける。 eriko@nishitech.ac.jp メールの件名は「学籍番号・氏名・受講科目名」を記載すること。 ・講義開始後30分以上の遅刻や無断で途中退室した場合は、欠席扱いとする。また、遅刻3回は欠席1回として扱う ・携帯電話の厳禁(マナーモードでバックの中に収納) ・積極的にグループディスカッションに参加すること</p>
授業外における学習方法	<p>①参考書として指定してある書籍を熟読しておくこと。 ②講義中に出された課題を作成し、次週までに提出すること。また、併せて予習の徹底を行う。 ③各回の講義では、必ず進捗した講義内容の復習を行っておくこと。 小テストや課題レポートを実施します。</p>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無：あり 2. 能動的授業科目種類：グループ形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無：なし 4. 地域志向科目内容：-</p>

授業年度	2017	シラバスNo	DX505A
講義科目名称	会計学入門		
英文科目名称	Introduction to Company Accounts		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	竹中 知華子		
開講意義目的	これから企業に就職したりして経済に関わりを持つ人にとって、会計の知識は不可欠です。その企業が今、どういった状態にあって、将来どうなるのかなど、企業に関する様々な情報を提供してくれるのが会計です。会計がなぜ重要で、どんな情報を提供してくれるかをこの講義で学びましょう。		
授業計画	<p>1 講義概要 会計とは、株式会社とは、経済とは、 まずは会計って何だろう、何の役に立つのだろう、ということをはっきりとさせていきます。</p> <p>2 株式会社のしくみと会計の役割(1) 株式会社の役割・しくみを理解しましょう。</p> <p>3 株式会社のしくみと会計の役割(2) 会計の役割を理解しましょう。会計と企業経営について講義します。</p> <p>4 複式簿記(1) 会計に欠かせないのが「複式簿記」のしくみです。 複式簿記のしくみについて理解しましょう。 まずは概要を説明します。</p> <p>5 複式簿記(2) 勘定科目 資産・負債・純資産(資本)・収益・費用など</p> <p>6 複式簿記(3) 財務諸表(損益計算書と貸借対照表)について</p> <p>7 取引について(1) 取引をいつ記録するかということが重要であることを講義します。</p> <p>8 取引について(2) 取引をいくらで記録するかということについて講義します。</p> <p>9 貸借対照表(1) 貸借対照表とは何かを講義します。貸借対照表に関して、流動資産や資産の流動化、固定化なども説明していきます。</p> <p>10 貸借対照表(2) 貸借対照表とは何かを講義します。貸借対照表に関して、有形固定資産や無形固定資産、営業権、投資なども説明していきます。</p> <p>11 貸借対照表(3) 貸借対照表とは何かを講義します。貸借対照表に関して、繰延資産、負債、純資産なども説明していきます。</p> <p>12 損益計算書(1) 損益計算書の目的を講義します。</p> <p>13 損益計算書(2) 損益計算書に関して、ROA、特別損益などを説明していきます。</p> <p>14 損益計算書(3) 損益計算書に関して、ROE、EPS、PERなどを説明していきます。</p> <p>15 まとめ 本講義を総括します。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目です。 3)身につけたデザインの知識や多様なデザインリソースをもとに、企画・評価・提案を行い、人間社会に必要な価値を創造することができる(デザインマネジメント能力の修得)		
授業の到達目標	株式会社の仕組みや会計の役割を理解できる。 日商簿記3級程度の知識を得ることができる。		
指導方法	基本的には講義スタイルで行います。 会計や経済に関する日々のニュースの中で、テーマをピックアップし提示しますので、 取り上げられたテーマについて、皆さんに様々なディスカッションを展開してもらいたいと思います。 議論を展開できるような理解力をつけましょう。		
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:初回の講義で説明します。		
評価方法	授業参加態度:30% 講義内小テスト:70%		
受講上の注意	連続して受講することで一連の流れがつかめます。 欠席をしないようにしましょう。		
授業外における学習方法	日商簿記の資格取得をお勧めします。問題集など指導しますので、関心のある学生は尋ねてください。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目:あり 2. 能動的授業科目種類:議論形式によるアクティブラーニング 3. 地域志向科目:なし 4. 地域志向科目内容:-		

授業年度	2017	シラバスNo	DX506A
講義科目名称	時事問題研究		
英文科目名称	study of current events		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位	選択
担当教員	野崎 伸一		
開講意義目的	国内外の重要なニュースを取り上げ、その背景や原因を分析し今後への影響を考える。取り上げるジャンルは政治、経済、社会、国際、日中・日韓関係の5分野で、我々の生活に直結あるいは深く関連したテーマを解説する。これにより社会生活に必要な基礎知識を身に付け、現代社会への理解を深めることを目的としている。		
授業計画	<p>第1回 アベノミクスの限界 簡単な講義紹介の後、デフレ脱却と経済成長を目指したアベノミクスの功罪を解説する。</p> <p>第2回 消費税10%アップ問題 消費税増税の意味と背景、増税後の景気を展望する。</p> <p>第3回 貧困と格差 世界的な傾向である貧困と格差の拡大。その原因と対策を考える。</p> <p>第4回 自由貿易協定の行方 トランプ大統領の登場で世界の貿易のあり方が大きく変わろうとしている。その現状と課題を考える</p> <p>第5回 憲法改正 憲法とは何か。自民党などはなぜ今憲法改正を急ぐのか。憲法の何を変えようとしているのか。憲法改正の意味を基礎から学ぶ。</p> <p>第6回 天皇制と生前退位 天皇制とは何か。天皇の生前退位の何が議論されているのか。天皇制と生前退位について基本的なことを学ぶ。</p> <p>第7回 選挙制度改革 法の下における平等と選挙制度の関係について、全国で起こされている訴訟の動向や制度改革に向けた各党の動きを解説する。</p> <p>第8回 超高齢化社会への対応 超高齢化社会は政治、経済、社会などすべての分野でこれまでとは異なる枠組みを必要としている。今後、確実に訪れる超高齢化社会の課題を考える。</p> <p>第9回 エネルギー問題 原発と再生可能エネルギーの状況。地球温暖化問題との関連。パリ協定の今後を考える。</p> <p>第10回 食糧問題 日本の食料自給率は約4割。先進国でも低い自給率の中で日本は今後、食糧確保に向けてどのように取り組むのか。一方で、大量の食料が廃棄されている。食料をめぐる日本の状況を様々な角度から考える。</p> <p>第11回 世界的な右傾化の流れ 英国のEU離脱や米国のトランプ大統領誕生は政治や社会の右傾化が要因の一つといわれる。この流れは欧州各国に広く広がっている。そこにはどのような背景があるのか。さまざまな角度から検討する。</p> <p>第12回 イスラム過激派と世界 世界各地で頻発するイスラム過激派のテロ事件。各国はイスラム過激派の壊滅に向けて協力しているが容易ではない。イスラム過激派とは何か。何を目的にテロ事件を起こすのか。イスラム過激派と現代社会について考える。</p> <p>第13回 歴史認識問題 靖国神社参拝や南京事件、慰安婦や強制連行の問題は、日中や日韓の間で長年、論争が繰り返され外交問題に発展するケースもあった。対立の背景を探り、どのような取り組みが可能かを考える。</p> <p>第14回 領土問題 日本はロシア、韓国、中国とそれぞれ北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる領土問題を抱えている。領土問題の背景と現状、問題点を解説する。</p> <p>第15回 総括 期末試験とその解説</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>情報デザイン学科では 4)実務型技術者としての実践力 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけ、デザインに関する課題解決に活用することができる。</p> <p>建築学科では 4)実務型技術者としての実践力 社会人基礎力を身に付け、情報技術とデザイン力で地域社会や産業界に貢献することができる。</p>		
授業の到達目標	政治、経済、社会、国際などの各分野で起きる主な出来事の基礎知識を習得する。現代社会への関心を深め、社会問題を自らで考えることのできる力を身につける。		
指導方法	講義の最初に関連の新聞記事を配布し、記事を読ませた上で、出来事の背景を解説する。学生の理解度を確認するために、適宜、質問を投げかけ回答させる。		
教科書・参考書	教科書はなし。講義のテーマの新聞記事を使用。参考書は講義の中で適宜、紹介する。		
評価方法	授業態度30%、期末試験70%		
受講上の注意	授業開始後30分以上の遅刻は欠席扱いとする。遅刻3回は欠席1回として扱う。大きな出来事が発生した時は、その話題を取り上げることもあるので授業計画の順序と異なることがある。		
授業外における学習方法	新聞を読むこと。講義で取り上げたテーマについて復習するとともに関連資料にも目を通し、自分の考えをまとめること。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目:なし 2. 地域志向科目:なし		

授業年度	2017	シラバスNo	DX507A
講義科目名称	ビジネスと経済		
英文科目名称	Business and Economy		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位	選択
担当教員	竹中 知華子		
開講意義目的	誰にとっても身近な経済、金融、財政問題をわかりやすく講義します。経済・金融・財政の基本を学びましょう。実社会で必要とされる経済的視点を養い、ビジネスの現場で役立てられる能力を身につけましょう。		
授業計画	<p>1 講義概要 本講義の目的を説明します。経済とは、ビジネスとは、何のためにこの講義を学ぶのか、その意義を理解しましょう。</p> <p>2 日本経済の概略(1) これまでの日本経済の歴史を解説していきます。</p> <p>3 戦後、高度成長期 日本経済の概略(2) バブルの時代 株価、地価の高騰</p> <p>4 日本経済の概略(3) バブル崩壊 長期低迷の時代</p> <p>5 日本経済の概略(4) リーマンショック 日本への影響</p> <p>6 暮らしと経済(1) 現在日本の人口構造や世帯の変化による経済状況について講義します。 少子高齢社会 社会保障問題</p> <p>7 暮らしと経済(2) 消費と貯蓄</p> <p>8 暮らしと経済(3) 雇用と失業 女性の社会進出</p> <p>9 暮らしと経済(4) 働き方 正社員と非正規社員</p> <p>10 企業・産業・金融(1) 日本の企業の特徴 日本的経営と最近の変化</p> <p>11 企業・産業・金融(1) 金融問題</p> <p>12 企業・産業・金融(1) エネルギー問題</p> <p>13 企業・産業・金融(1) 貿易構造 国際収支</p> <p>14 財政 財政の役割 予算</p> <p>15 まとめ 本講義を総括します。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目です。 3)身につけたデザインの知識や多様なデザインリソースをもとに、企画・評価・提案を行い、人間社会に必要な価値を創造することができる(デザインマネジメント能力の修得)		
授業の到達目標	景気、株、為替、財政などの項目ごとの経済問題を分析できる。 日常生活、これからのビジネスの場面で、日本の経済情勢を把握し、雇用や所得問題などに対応できるような強い経済理解力を獲得できる。		
指導方法	講義スタイルで行います。 経済やビジネスに関する日々のニュースの中で、テーマをピックアップし提示しますので、取り上げられたテーマについて、皆さんに様々なディスカッションを展開してもらいたいと思います。 議論を展開できるような理解力をつけましょう。		
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:初回の講義で説明します。		
評価方法	授業参加態度30% 講義内小テスト70%		
受講上の注意	連続した受講による一連の経済の流れがつかめず。 欠席しないようにしましょう。		
授業外における学習方法	日々の経済ニュースに関心もしくは疑問を持ちましょう。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目:あり 2. 能動的授業科目種類:議論形式によるアクティブラーニング 3:地域志向科目:なし 4:地域志向科目内容:-		